

いざ決戦！地区新人大会

文責 校長伊藤

3年生からバトンを引き継いで最初は不安だらけだった各部の新チームも今では貫禄も出てきました。いよいよ決戦の時を迎えます。今週末(9月10日～11日)地区新人戦、県陸上新人大会が行われます。暑い夏に頑張った自分を信じて全力で戦ってきてください！チーム米商 顔晴れ～

- 男女弓道部＝米沢市営武道館弓道場 ○バスケット女子＝高畠高校体育館
- バレーボール女子＝米沢中央高校 ○サッカー＝米沢市営人工芝サッカーフィールド
- ソフトテニス女子＝米沢工業高校テニスコート ○バドミントン＝米沢市営体育館
- ホッケー＝川西町総合運動公園ホッケー競技場
- 陸上県新人大会＝酒田市光が丘陸上競技場
- 野球＝高畠球場



3年生の就職模擬面接

闘っているのは1・2年生の新人チームだけではありません。8月31日から三日間に渡って3年生就職模擬面接が行われました。今年は特別企画として企業担当者様より面接官になっていただき本番さながらの面接が行われました。実は以前の模擬面接では途中で泣き出す人などもありました。しかし今年の3年生は堂々としたものでした(お世辞ではありません)。企業の面接をされた方も「非常に立派である」「清々しい高校生から元気をもらった」など高評価でした。それは自信にしては良いですが、あくまでも勝負はまだ決まったわけではありません。最後まで気を抜かずに就職試験に臨んでく



ださい。 9月15日(木)進路激励会 9月16日(金) 就職試験開始

ああ～ちむどんどんする～(商業研究部 パン販売)

こちらの写真をご覧ください。どこかの大企業の会議に見えます。これは商業研究部が商品開発したパンを販売するための作戦会議です。まだ企業秘密にしてくださいということなので、大きな声では言えませんが、この日は山形県担当者、○一ソン担当者、○埼製パン担当者と商業研究部員で打合せを行いました。試食用のパンも完成し、その味などについて激論が交わされたようです。とにかくちむどんどん(胸がワクワク)します。発売まで待ちきれません



先週の大会報告

○弓道部 第52回ダリア杯弓道大会 男子団体3位

藤平航輝、菅井一希、安部蹴斗、竹田清智、小浦和慈

○野球部 秋季高校野球地区大会 6対7 長井工業 (敗者復活戦へ)

米商の歴史に触れませんか！

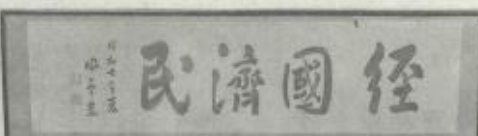
創立120周年の米商にはお宝が沢山あります。渋沢栄一、武者小路実篤などの他に昨年私が発見した物があります。それが赤湯出身の結城豊太郎先生(大蔵大臣、日本銀行総裁)の扁額。合宿所である至誠会館の2階に資料室があります(是非行ってみてください。希望者は校長まで)。そこに置かれてあった扁額がこの新聞記事のものです。私は校訓「進取」の揮毫者である渋沢栄一と結城が繋がっていたからこそ米商に渋沢の揮毫があると思っています。理由は当時の渋沢栄一は地方の校長が簡単に会える人ではなかったんです。誰かが仲介したと推測しています。それが結城豊太郎！実は結城豊太郎が日本銀行総裁の時の副総裁が渋沢栄一の孫である渋沢敬三。私の推測は、第7代校長⇒結城豊太郎⇒渋沢敬三⇒渋沢栄一と繋がる。これは私の推測でしかありませんが、米商の歴史にロマンが広がります！

2022年(令和4年)9月6日(火)

南陽出身・結城豊太郎の揮毫 公開 記念館で今秋



結城豊太郎(南陽市立結城豊太郎記念館提供)



結城豊太郎が揮毫した「経国済民」の扁額について話す伊藤広幸校長(右)と鈴木かなえ館長。米沢市本町3丁目の米沢商業高校。



結城豊太郎

現在の南陽市赤湯の造り酒屋に生まれる。旧制山形中(現山形東高)を経て東京帝国大卒。日本銀行の理事兼大阪支店長などを歴任した。林銑十郎内閣で蔵相。1937年7月〜44年3月に第16代日銀総裁を務めた。就任の際、赤湯の義兄らに「気持ちには固有名詞の『日本銀行』に非ずして『日本の銀行』というべきであり、日銀の責務は重かつ大であると考えます」と手紙を送った。蔵書を地元(寄贈し、35年に「瑞雲文庫」に現結城豊太郎記念館)を開設した。

太平洋戦争中に日本銀行総裁を務めた南陽市赤湯出身の結城豊太郎(1877〜1951)が揮毫した扁額がこの秋、ふるさとの記念館で初公開される。県立米沢商業高校で「発見」されたことがきっかけで実現した。結城が文字に込めたものは何か。いまに問いかけている。

同校の創立120周年の6月13日、伊藤広幸校長のもとを同市立結城豊太郎記念館の鈴木かなえ館長が訪れた。「昨年夏、結城が『経国済民』と書いた扁額を発見しました」。伊藤校長が話しかけた。厳密には発見ではない。扁額は20年前の米商百年史で紹介され、創立30周年の1932年夏、当時日本興業銀行総裁の結城が記念講演後に揮毫したとされる。赤湯出身の伊藤校長は結城に関心があり、校内の資料室に眠っているのに気づいたのだ。

同校には創立20周年の22年に明治大正期の実業家、渋沢栄一(1840〜1931)が揮毫した校訓「進取」も残る。当時の校長が何度も上京して依頼したと伝わるが、伊藤校長は「東北の校長が渋沢に直に頼むのはありえない。結城が橋渡ししたのでは」とみる。結城と渋沢は交流があったが、2人の関わりを示す文書は渋沢の揮毫の翌25年以降のものしか見つからないという。鈴木館長は7月に渋沢の出身地、埼玉県深谷市の記念館にも足を運んだが、新たな資料は得られなかった。

結城による「経国済民」の揮毫はほかでは確認されていない。似た言葉では、経済の語源となった「経世済民」が知られ、世を治め、民を救うという意味がある。

鈴木館長は直前の出来事に注目する。32年に相次いだデパート。2月に日銀の先輩で結城が尊敬する元蔵相の井上準之助が衆議院選の演説会場で、3月には三井財閥総帥の邸宅で三井本館の入り口付近でいずれも銃撃され死に、「血盟団事件」だ。海軍青年将校らの「5・15事件」では大義殺首相が暗殺された。

緊縮財政による軍費削減への反発が背景の一つとされる。前年の31年には渋沢が亡くなり、鈴木館長は「結城にじくじたる思いがあり、国を平和にし、民を助ける思いを『経国済民』に込めたのかもしれない」とみる。

結城は戦中、「通貨の番人」として日銀の役割に腐心。44年の総裁辞任は軍部に抗しきれず、事実上の更迭だったとの見方もあるという。

揮毫に関する調査の過程では、記念館で新たな資料も発見された。

真珠湾攻撃3日後の41年12月11日の「海軍作戦経過概要図」や「大東亜戦争開始以降」と書かれた「支那方面戦況概観図」、日銀調査局が40年10月にまとめた「欧州戦争第一年誌」などだ。鈴木館長は「結城が日銀総裁として、戦争に関する様々な報告を受けていたことを示す生々しい資料。分析したい」と話す。

企画展として10月半ばから約2カ月間、結城があることに残した足跡を紹介する予定。その中で同校から「経国済民」の扁額を借りて展示し、言葉が意味することや残された経緯、時代背景などを確かめられたことを解説する。

(坂田達郎)

「経国済民」こめたもの

軍部台頭下「国を平和に、思いでは」

日銀総裁時代の戦況資料も発見